

活動実施計画書

団体名：鶴舞・千種エリアマネジメント協議会

1 都市マスとの関連性（A～H、1～3をそれぞれ選択して記入してください。）

B-2, C-1, E-2, F-3, G-1

2 活動地域の特性、現況、課題

鶴舞・千種エリアは、商業・教育・福祉施設など多数の事業者が位置し、居住に適した地域である。昨年 10 月には STATION Ai もオープンし、最新の技術やサービスが集まる場所としても注目を集めている。また、名古屋都心部から近く、小学校や大学、大規模な集合住宅、高齢者施設があり、若者から単身者や子育て世代、高齢者など多くの世代が住んでいる。これまでの協議会活動や地域活動への参加を通して、千石学区連絡協議会（以下：学区）を中心とした地域組織の高齢化や人材不足に加え、多世代を繋ぐコミュニティが希薄な現状を実感している。一方で、協議会のイベント実施や周知活動により新たな地域の店舗や活動者との協力関係の構築が進んでいる。安心・安全で災害に強く、魅力的な活動が生まれるまちを目指すにあたり、千種エリアに加え、大学や STATION Ai を含む鶴舞エリアとの連携を図り、鶴舞公園などの地域資源や新たな人材を地域に引き込み、世代を超えた交流が活発になる基盤づくりが必要であると考えます。

3 団体の活動実績

※ 過去に地域まちづくりの助成を受けたことがある場合、その実績も含めて記入すること

一昨年度より、学区の夏祭りと共に社会実験を実施している。昨年度は千種アースクエア周辺において歩行者天国を行った。事業者の民地から公共空間へ越境する波紋を描き、民地・公地を介して活用することで、賑わいが滲みだすウォークアブルなまちを実現した。これにより高齢者施設の入居者や地域のレストランを巻き込み、世代を超えた交流や賑わいのきっかけを学区とともに生み出すことができたことは成果である。準備段階の装飾ワークショップでは、地域の子どもと夏祭りの装飾を制作した。

上記の活動は昨年構想づくり活動助成を活用し、実施したものである。

2 月には、鶴舞エリアにオープンした STATION Ai を中心に、鶴舞・千種エリアの歴史を巡るスタンプラリーとビアガーデンを開催し、社会実験をきっかけに協議会の活動に参加した地域のレストランにも出店していただいた。鶴舞エリアからの参加者も多く、新たな層へ協議会活動の認知を深められた。また、スタンプラリーは名工大の佐野・上村研究室にご協力いただき、最新技術を用いた歩行支援機を体験できる企画を開催した。これにより、大学生、事業者、地域住民が歩きながら交流する場を作ることができた。以上のように、街に出会いの場をつくり、相互に顔の見える世代を超えたコミュニティの構築に努めた。

4 助成を受けようとする活動の目的

今年度は、昨年度の社会実験を経て更新した千種アーススクエアのビジョンに加え、鶴舞エリアとの一体的な活用を見据えたビジョン更新のために社会実験をおこなう。2月に STATION Ai にておこなった企画より、鶴舞エリアとの連携の下地を作ることができた。また、アンケートにより地域住民や来街者から鶴舞・千種エリアのまちを歩いた感想や意見を得た。地域住民や学区の会長を交えた勉強会にてビジョンに関する要望、課題を把握し、まち歩きや現状からビジョン ver2 を作成した。

そこで今年度、社会実験としておこなう夏祭りは、鶴舞・千種エリア一体となって連携し、鶴舞エリアに向け若宮大通の高架下まで拡大して実施する。高架下活用は、都市の分断要素とされる懸念に対するチャレンジであり、まちづくり構想の高度化にむけたトライアルである。若宮大通の高架下空間を鶴舞・千種エリアをつなぐ公共空間として再定義し、鶴舞・千種エリアが一体的に活用されることに対する地域の声を反映した「ビジョン ver3」へと進化させることが目的である。

また、昨年新たにオープンした STATION Ai やまちづくり活動の周知により新たに仲間となった地域の店舗、活動者との連携を図り、多世代が交流し、地域住民が参画する夏祭りとし、持続可能なまちづくりの担い手を増やすことも目的である。

5 活動による今年度の成果目標

昨年度に引き続き、学区と連携し社会実験として夏祭りを実施する。

昨年度実施した千種アーススクエアに加え、若宮大通の高架下を活用することで、あまり使われていない特殊な都市空間に対する多様な活用の可能性を検討すると共に、鶴舞エリアまでの連携拡大を目指す。附随する準備過程におけるワークショップや、当日実施のアンケート調査では、地域住民の声と多世代交流の指針を得る。特にこれまでの夏祭りのアンケート調査では来場者の約半数が子育て世代（30～40代）であり、20代や高齢者層の参加も増加している。この傾向を踏まえ、今年度も子育て世代を主軸としつつ他世代も巻き込める企画を展開し、世代間交流の促進を図る。

また、社会実験以外にも、地域イベントなどの日常的な関わりを深め、地域の意見を取り入れたビジョン作成を行う。これまで事業者が先行してまちに仕掛けており、住民の内発性が弱いことが課題である。そのため住民自身の「まちをよくしたい」という思いを醸成し、住民が主体的に関わる仕組みをつくり地域の自発的な発展を目指す。その上で都市機能が集積したエリアの特性を生かし、地域内外の交流・連携を促進や、新たな価値を生み出すまちづくりの展開を目標とする。

6 助成を受けようとする今年度の活動内容

① 夏祭り

学区恒例の盆踊りと連携した夏祭りにおいて社会実験を実施する。千種アーススクエア周辺のオープンスペースに加え、若宮大通の高架下において、今まで作ってきたビジョンに基づいた企画の実施や、歩道空間・民地・公地に什器を設置し、多世代が憩える居場所をつくる。事業者の特徴・地域のレストラン・学生の学習を反映した企画により、各々の顧客や利用者を巻き込み、多世代交流を図る。効果検証をし、課題や魅力、意見等を得る。

② 夏祭り装飾ワークショップ

夏祭り実施に伴い、地域住民の参画を目的とし、地域のこどもたちと制作を行う。

7 今年度の活動実施の際に協力や調整等が必要となる関係者等

① 周辺事業者

鶴舞・千種エリア周辺の事業者どうしで連携し、企業市民として地域活動に貢献することで、持続可能な活動の基盤を構築するため。

② 千石学区連絡協議会

地域の現状や意見をリアルタイムで把握し、まちづくり活動に反映させるため。昨年度からは、学区が協議会の幹事メンバーとなり活動をおこなう。

③ 千種区役所、千種土木事務所、千種警察署、その他関係行政機関

高架下や歩道空間など、賑わいの場としてオープンスペースを使った社会実験をおこなうため。一昨年度から、公地利用に関する協議をおこない、協力のもと社会実験を実施している。

8 今年度の活動内容のスケジュール

月	活動内容	詳細
4	夏祭り内容検討	→地域住民・学生・周辺事業者・学区を交え、企画検討WSなどを実施
5	夏祭り内容検討	→地域住民・学生・周辺事業者・学区を交え、企画検討WSなどを実施
6	夏祭り・社会実験準備 第一回勉強会 鶴舞公園の歴史を知る 夏祭り装飾WS	→備品の発注や申請等を進める →夏祭りの企画への意見から、企画のブラッシュアップをおこなう →鶴舞公園の方から歴史を聞き、まちを知る →地域住民の参画を目的とし、夏祭りの装飾を地域のこどもたちと制作する
7	夏祭り・社会実験準備 ホッププロジェクト	→備品の発注や申請等を進める →エリア全体で縁のあるホップを育てていくプロジェクト

8	夏祭り・社会実験実施	→公共空間における多世代交流のビジョン更新に向け、エリアを拡大して社会実験をおこなう
9	第二回勉強会	→夏祭り・社会実験の振り返りをおこなう
10	秋の社会実験	→まちづくりの周知を目的として、地域住民とともに考える企画の実施
11	ふれあい祭り	→日常的な関係づくりのため、地域の祭りに参加する
12		
1	ビジョン検討	→社会実験から得た地域住民の意見やデータより、地域住民・学生・周辺事業者・学区を交えて、ビジョン検討 WS などを実施
2	ビジョン検討	→社会実験から得た地域住民の意見やデータより、地域住民・学生・周辺事業者・学区を交えて、ビジョン検討 WS などを実施
3	三回勉強会	→今年度の振り返り、ビジョンに対する意見をもらう

9（構想策定・実践目的達成）までの想定プロセスと今後の展望

5 に示した通り、昨年度に引き続き社会実験として夏祭りを鶴舞エリアに向けて拡大しておこなう。夏祭りを経て得られた知見や地域との新たな関係から、秋にも目的や開催場所を絞った小さな社会実験をおこなう。ビジョン更新に向け地域の意見を得る企画を実施していく。また、ホップを育てるプロジェクトや、まちの歴史を知る機会、地域の活動への参加をすることで、継続的に地域住民にアプローチし、協議会の活動に対する地域住民の認知を広げ、密接な関係の構築を目指す。年度末には地域住民から得られた意見より、地域課題とビジョンの評価を議論することで、より地域の声を反映させたビジョンに更新し、来年度の活動の指針とする。

また、今年度は協議会の幹事企業によって法人を設立し、都市再生推進法人指定を目指す。昨年度までは社会実験実施によって道路や公園を活用することに留まっていたが、都市再生整備計画を提案し、行政と連携したビジョンの作成をおこない、さらには活動を継続的にこなうためのまちづくりとしての収益事業や、これまでに得た知見を活かしたまちのハード整備をおこなっていきたい。

こうして、事業者が地域住民や大学、行政と連携し、企業市民として地域活動のプレイヤーとなることで、多世代交流を生み、これからのまちづくりを担う主体として若い世代を巻き込むことができると考えられる。そして、この活動で生まれた交流や賑わいが一過性のものとならず、持続可能なまちづくりの基盤を構築することが可能になると考えられる。

※ 各欄のサイズ変更は可能ですが、4 ページを超えないように作成してください。

※ 用紙の大きさは日本産業規格 A4 とする。

※ この様式は公開されます。